

## — 卷 頭 言 —

## 日本 SPF 豚協会誌発行に際して

日本 SPF 豚協会会長

有 吉 修二郎

わが国経済の驚異的な発展のなかにあつて、農業生産性の向上に対する要請はますます急なるものがある。その要請にこたえるためには生産構造の改革とそれを可能にする技術の確立がなによりも必要であろう。

養豚についてみるならば、新しい優良な品種、系統の導入をはじめとする幾多の改良努力と、一方では新しい栄養などの進歩を基盤とする進歩した配合飼料の導入などが行なわれた。これらの面からみるならば、既存のデータはいずれも飼料要求率 3.0 以下の肉豚飼育が十分に可能であることを示している。それにもかかわらず、要求率 3.0 の壁を生産の場において破ることができない大きな、恐らく最大の理由は疾病である。

SPF豚の作出に関する研究はこのような観点より、農林省家畜衛生試験場においてとり上げられた研究に関する限り一応完成の域に達している。しかし、実際の生産者にとっては、大学、試験場などにおける研究がいかに進んでも、それは可能性が示されるのみであつて、現実の生産性向上に直ちにつながるものではない。

養豚の現実における疾病の脅威を痛感している原種豚、飼料などの関係技術者、会社などは SPF 豚の実用化を促進する目的をもって日本 SPF 豚協会を結成し、情報の交換、検定基準の統一、種豚の入手便宜の供与などの活動を行なうと同時に、官公庁の施策に協力し、指導を受けて、SPF 豚の正しい発展をはかる一助とすることにした。国、公共機関などの研究成果は、もとより国民一般の財産であり、一部業者の利益にのみ供せられるものであつてはならない。

日本 SPF 豚協会は技術の公開を原則として会員相互の援助による技術水準の向上をはかると共に、広く一般に情報を提供して養豚業界の夢である慢性病一掃の一助といたしたいと考えて、この会誌を発刊することとした。他の疾病対策の進歩と共に、SPF 豚が普及して、慢性病が姿を消しもはやこの会誌が不用となる時期が一日もはやからんことを願うものである。